

## 平成27年度第1回川崎市地域自殺総合対策推進連絡会議要旨

### 【会議の趣旨】

平成25年12月に制定した「川崎市自殺対策に関する条例」に基づくものという側面のみならず、約10年に渡り自殺対策に取り組む中で行政だけではなく、様々な団体や市民一人一人が何かしら自殺対策に寄与できることを学んだ。そのため、顔の見える連携を作り、様々に連携し、共同作業で川崎市の自殺対策としてできることから行っていきたいとの趣旨でこのような会議を立ち上げた。

### 【委員の発言趣旨】

- 相談を受けた際にうつかどうかを判断することが難しく、加えて精神科に受診することへの抵抗感があり、提案することが難しい点が解決しなければならない課題である。
- 地域の中でゲートキーパーとして活動する際にプライバシーをどう扱うのかも課題である。プライバシーを扱うには行政のお墨付きが必要になる。
- 自殺予防のための事前のメンタルヘルスに関する啓発をもっと行う必要がある。
- 常識というものは人それぞれであり、自分の尺度では図ることができない状況に置かれている方もいるため、そういった方々の目線に立って考えていくべき。
- 宗教が自殺予防のかなり重要な要素になるとのことなので、委員として宗教関係者にも参加いただくとよいのではないかと。ただし、布教との関係はデリケートな問題のため、慎重な対応が必要になる。心理や精神医学について学び、共通意識を持って宗派を超えて対応する臨床宗教師という資格を持った方であれば宗教の偏りなく参加いただけるかもしれない。
- 委員それぞれに立場があり、自殺対策は範囲が広いと、対策を考えていくのならば焦点を絞る必要があると、事務局には焦点を絞った対策の検討をお願いしたい。
- 自殺のプロセスについて、こういう場だからこそきちんと共有できるが、一般の方への周知をどうするのが課題となる。
- 自殺総合対策と銘打つ会議であれば、自殺の予防、危機介入への対応のみならず、遺族・遺児支援も視野に入れた取組が必要である。

### 【事務局から】

- 問題がどこにあるのかをきちんと捉え、対策のどこに重点を置くのか焦点を絞っていく必要がある。当面の課題としては、自殺未遂・既遂の実態把握及び事例検討の実施があり、実態を把握し、事例を深めていく中で連携の方法も検討していければと考えている。

- こころの健康や精神保健分野の情報について、精神保健分野からの発信だけでなく、様々な分野からの発信について協力いただきたい。
- 行政で行っているゲートキーパー講座について、対象によって内容を変えているが、共に企画させていただくことで違った切り口も見えてくる上にノウハウも蓄積できるので協力いただきたい。
- 危機介入・自殺未遂の問題について、川崎らしい仕組みを構築できるよう御相談させていただきたい。